

みんなの居場所ここから 2年目の振り返り

1年で56名の利用登録がありました

「みんなの居場所ここから」は、「はたらっく・ざま」のプログラムを終えてもメンタルが不安定になり就活できない、プログラムの途中で次のステップに向かえないなど「はたらっく・ざま」の支援では、抱えている課題を解決できない方たちのために、もっと入り口が緩やかで自宅以外に通える場、ほっとできる場が必要とのニーズの中から生まれました。

2021年6月15日に開所し、1年と2か月ほどが経過し、2022年7月末までに利用登録された方は、56名(男性31名、女性25名)です。男女とも20代の方が多いです。

登録のきっかけが「はたらっく・ざま」が一番多く34名(男性18名、女性16名)なのは、連携していることの表われです。また、就職しても、気軽に相談できる場、ほっとできる場を求めている利用者もいます。就職がゴールではなく、職場、家庭以外に緩やかに繋がっている場所が必要だと改めて感じます。「はたらっく・ざま」からの利用者は、通うことに慣れているので、居場所の継続的な来所につながる傾向にあります。



「はたらっく・ざま」以外の利用者

座間市が2020年8月から始めているアウトリーチ支援からつながった方、広報ざま掲載のイベントがきっかけとなった方やネット検索で居場所を見つけた方などの利用があります。この方たちは、継続的な来所にならないことが多く、少ないかわりの中でスタッフとの距離感がつかめず、どのような居場所を求めているのかわからないままです。過度な働きかけもできないなか、待つだけになってしまうことが多いのが現実です。ただ、その中でも、昨年6月に1度だけ来所した方から、半年後に「話したかった」と電話があり、居場所のことを思い出してくれたことにほっとしました。

家族相談

家族向けに2021年7月に座間市のアウトリーチをされている保健福祉士の方、10月に座間市の家族会の世話人をされている方をお招きし、家族向けセミナーを開催しました。7月は10名、10月は4名の参加がありました。

セミナーのほか、月2回相談日を設けています。7月までに12名の方の相談がありました。相談後、「みんなの居場所ここから」「はたらっく・ざま」の利用や座間市の自立サポートにつながることもありますが、ほとんどが当事者とつながることがなかなかできず、ひきこもりの方への支援の難しさを実感しています。相談された方の中には、何度も近況などを話しに来所される方が何人かいます。近所の方や友人には相談できず、ひとりで抱えているため、ここからでお話することで、家族がほっとできる場、心が少しだけ軽くなれる場となっているようです。



居場所として ※写真①

居場所として、何もしなくてもいい、ただほっとできる場を意識していましたが、話をしたいという方が多くいました。40代、50代の方は話をしたい、10代、20代の若い世代は何かプログラムがあったほうが良いという傾向がありました。

「はたらっく・ざま」との連携をしていることで、修習生の利用があります。働いてはいるが、仕事をしていく中での悩みや感想を話したい、仕事で緊張しているのでほかにほっとできる場に行きたいというニーズがあることがわかりました。また、「はたらっく・ざま」利用者が、プログラム以外の日に通う場としての利用があり、外に出ることを習慣づけることにつながっています。



プログラム ※写真②③④⑤⑥

「みんなの居場所ここから」に来るきっかけとなるようものづくりや遊びのプログラムを月に2回企画しました。ものづくりは、季節を感じさせるものを意識し、次の企画を楽しみに、毎回参加される利用者もいました。ものづくりは、比較的女性の参加が多いので、男性の方が参加しやすい企画として、ボードゲームを実施しました。

パソコン講座を月2回実施し、電源を入れるところから始める超初心者むけだったので、初めてパソコンに触るという40代、50代の方に好評でした。

「はたらっく・ざま」の事前アンケートで、在宅ワークに興味がある方が多かったため、内職を体験する企画を実施しました。ボールペンの組み立てとベビーエプロンの包装の軽作業をし、12名の参加がありました。「また、やりたい」という感想の一方で、「想像以上に単価が低く、積極的に続けてやりたいとは思わない」という感想がありました。

今後に向けて

今後も事業の広報に努め相談支援の場、ほっとする場、意欲が芽生える場として居場所メニューの工夫をし、リピーターの利用者を増やしていきたいと思えます。最初の相談は、家族からがほとんどです。引き続き、家族を対象とした相談、セミナーなどを通じて、家族が抱える不安、困難などに寄り添いながら必要に応じて他機関につないでいきます。

また、今年度から「はたらっく・ざま」の「居場所サロン」と「お楽しみ講座」を、「みんなの居場所ここから」に移行しました。「はたらっく・ざま」で活動していたサポーターさんに、サポーターさん自身が企画した講座を月に1回のペースで実施し、プログラムを充実させ、ほっとできる時間を増やします。※写真⑦表①

「みんなの居場所ここから」はまだ開所して1年ちょっと。迷いながら試行錯誤の連続ですが、心を豊かにする、ほっとできる居場所と、「はたらっく・ざま」の社会的自立をめざす就労準備の機能を整理し、利用者にとって2つの場があることでより重層的な厚みのある支援をめざします。
(平山 喜代美)

① 居場所



②③ものづくり ステンシルでオリジナルエコバック



④⑤⑥季節を感じるものづくり



⑦サポーター企画のヨガと足心道（お試してスタッフが参加しました）



表①

6月	ヨガと足心道
7月	手作りクッキーでお茶しましょ♪
8月	昔あそび体験(メンコ、コマなど)
9月	革工芸(小銭入れ)
10月	ヨガと足心道
11月	ボードウィービングでコースター作り
12月	絵手紙
1月	習字
2月	ヨガと足心道
3月	エコバックでステンシル

